

【短 報】

東京都 26 年ぶりとなるヤナギスブタの確認記録と湿地再生について

舟木匡志^{1), 2)}・山下洋平^{1), 2)}・富田健斗^{1), 2)}・久保田潤一²⁾

Masashi Funaki, Yohei Yamashita, Kento Tomita and Junichi Kubota

Rediscovery of *Blyxa japonica* in Tokyo after 26 years and implications for wetland restoration

はじめに

ヤナギスブタ *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Ascherson et Gürke は、本州以南の水田、ため池、水路などに生育するトチカガミ科スブタ属の一年生の沈水植物である(角野, 1994)。東京都内では葛飾区、八王子市、町田市、国分寺市(本田ほか, 1965, 1970; 吉山ほか, 1967; 多摩市史編集委員会, 1993; 東京都環境局, 2023)で記録があるが、1997年の町田市の記録を最後に消滅しており、『東京都レッドデータブック

2023』(<https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/index.php>, 2024年6月17日確認)では絶滅とされている。

今回、著者らは狭山丘陵にある都立公園において本種を確認したので報告する。

材料と方法

調査地は、東京都立野山北・六道山公園内の谷戸に位置し(図1)、かつては稲作が行われていた湿地である。しかし、現在ではその利用

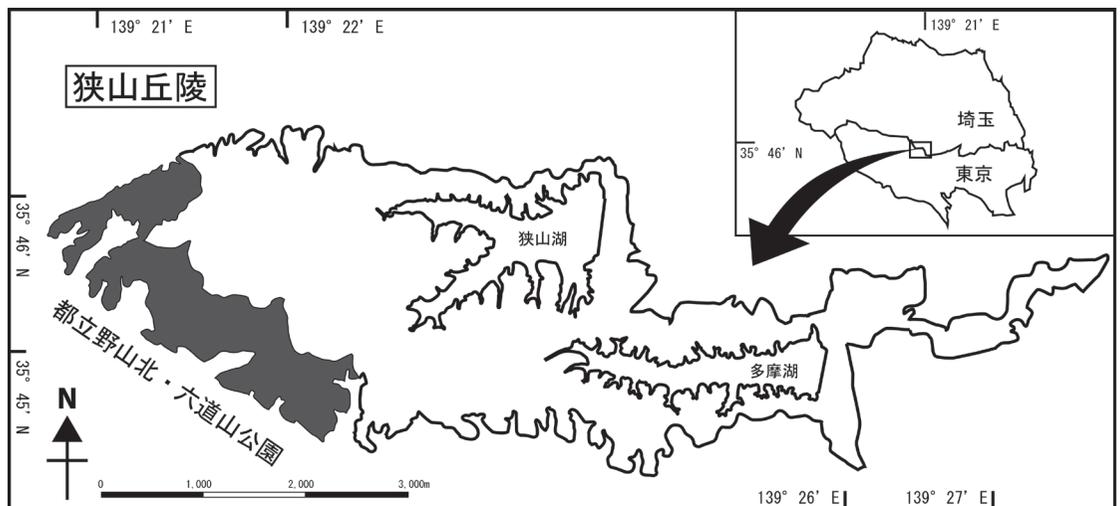


図1. 生育地位置図.

1) 狭山丘陵パートナーズ 〒208-0032 東京都武蔵村山市三ツ木4-2 野山北・六道山公園インフォメーションセンター内
 2) 特定非営利活動法人NPO birth 自然環境マネジメント部 〒188-0011 東京都西東京市田無町3-10-9

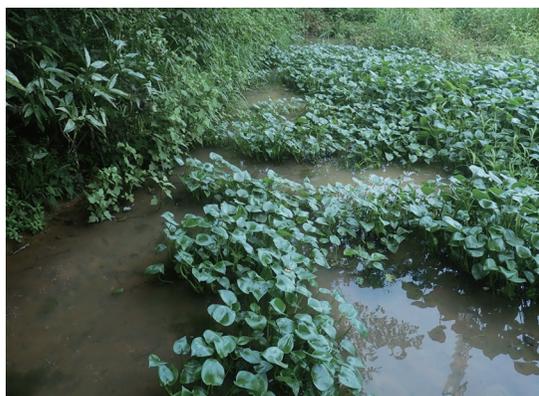


図 2. 湿地の様子.



図 3. 確認したヤナギスブタ.



図 4. ヤナギスブタの種子.



図 5. ヤナギスブタの花.

はなくなり、度重なる大雨の影響で土砂が流入し、ミヤマシラスゲやミゾソバ、サヤヌカグサなどの湿生植物が繁茂する状況であった。そのため、2023年1月に指定管理者が湿地再生の取組みとして、土砂の掘削を行っている。その結果、湛水エリアが確保されている（図2）。

調査は、2023年8月に行った。著者の一人(山下)が、水中に広がっている沈水植物を発見した（図3）。同年9月に同植物の個体の一部を根元から採集し、日本の水草図鑑（角野, 1994）、浜島（1982）に従い同定を行った。本調査は都立公園指定管理内の自然環境保全のためのモニタリング調査の一環として行われており、採集許可を得ている。採集地点の詳細な情

報については、採集地の攪乱防止の観点から市町村単位のみを表記にとどめた。

結果と考察

採集した植物体は茎が伸長してよく分枝しており、葉は互生で無柄、葉身は線形で葉縁には細鋸歯がある。類似種であるセトヤナギスブタの種子表面にはいぼ状突起がみられるのに対し、ヤナギスブタの種子表面は平滑である。採集した植物体の種子は後者の特徴を有することからヤナギスブタであると同定した（図4、図5）。本調査地には1株の生育を確認し、ヤナギスブタの他、ミズオオバコ *Ottelia alismoides* (L.)

Pers., ミゾハコベ *Elatine triandra* Schk. var. *pedicellata* Krylov, サウトウガラシ *Deinostema violaceum* (Maxim.) T.Yamaz., オモダカ *Sagittaria trifolia* L., コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm.f.) C.Presl ex Kunth var. *plantaginea* (Roxb.) Solms, カンガレイ *Schoenoplectiella triangulata* (Roxb.) J.D.Jung et H.K.Choi, フラスコモ類の生育が確認された。環境省レッドリスト (環境省, 2020) 掲載種はミズオオバコの 1 種, 東京都レッドデータブック (東京都, 2023) 掲載種はヤナギスブタ, ミズオオバコ, ミゾハコベ, サウトウガラシ, カンガレイの 5 種であった。本報告の証拠標本は, 東京都立大学牧野標本館 (MAK) に収蔵した。

今回確認されたヤナギスブタは, 土砂の掘削によって埋土種子が攪拌され, その結果発芽したものと考えられる。土壌に含まれる埋土種子 (シートバンク) から水生植物が復活した報告には, 西廣ほか (2006) や森ほか (2016), 尾崎ほか (2017), 伊藤 (2019) があり, 本報告からもその重要性が示唆される。一方では, 西廣ほか (2016) によると, 消失から 40 ~ 50 年が経過した種では再生が困難になると報告している。当地の水田は管理放棄されてからおよそ 60 年が経過しており, 埋土種子の寿命に近かったと推察される。今後は現地を安定した生育地として維持すると共に, 異なる湿地でも掘削による再生作業を行い, 埋土種子からの復活および埋土種子の若返りを図っていく。

証拠標本

ヤナギスブタ *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Ascherson et Gürke: 東京都瑞穂町, Sep. 17, 2023, 冨田健斗 (MAK 472239)。

謝辞

長池公園の内野秀重氏にはヤナギスブタの同定および, 文献情報を提供していただいた。

東京農工大学の片桐浩司氏には論文執筆にあたり有益なご助言をいただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 浜島繁隆, 1982. ヤナギスブタとセトヤナギスブタの比較. 水草研究会会報 (10) : 3.
- 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆・飯泉 優, 1965. 北多摩南部地域の植物. 『北多摩文化財総合調査報告第 1 分冊 東京都文化財調査報告書 (15)』 (東京都教育委員会編) pp.23-43, 東京都教育委員会.
- 本田正次・矢野 佐・小松崎一雄, 1970. 葛西地区の植物. 『北東低地帯文化財総合調査報告第 1 分冊 東京都文化財調査報告書 (23)』 (東京都教育委員会編) pp.1-24, 東京都教育委員会.
- 伊藤晴康, 2019. 水草再生のこれまで, これから. 『第 3 回井の頭池かいまり報告会 資料集』 (生態工房編) pp.15-20, 井の頭恩賜公園 100 年実行委員会.
- 角野康郎, 1994. 日本の水草図鑑. 文一総合出版.
- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. 環境省 (<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>, 2023 年 10 月 25 日確認).
- 森 晃・田村将剛・藤本泰文, 2016. 伊豆沼において土壌シートバンクから出現した絶滅危惧種ムサシモ (*Najas ancistrocarpa*, イバラモ科). 伊豆沼・内沼研究報告 (10) : 1-7.
- 西廣 淳・赤坂宗光・山ノ内崇志・高村典子, 2016. 散布体バンクを含む湖沼底質からの水生植物再生可能性の時間的低下. 保全生態学研究 (21) : 147-154.
- 西廣 淳・松江正彦, 2006. 土壌シートバンクを活用した湿地植生の再生: 現状と課題. 土木技術資料 48(12) : 24-29.
- 尾崎保夫・林 紀男・片桐浩司, 2017. 水環境の保全をめざした沈水植物再生の取り組みと今後の課題. 日本水処理生物学会誌 (53) : 81-93.
- 多摩市史編集委員会, 1993. 多摩市の自然 (地学・植物目録・動物). 『多摩市史叢書 (8)』 (多摩市史編集委員会編) pp.216, 多摩市.
- 東京都環境局自然環境部, 2023. 東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版一. 東京都環境局自然環境部.
- 吉山 寛・飯田紀園・菱山忠三郎, 1967. 多摩丘陵の池に産する水湿生植物. 私家版.